

(24) 栄養学教育における学士力の考察

栄養学教育FD/IT活用研究委員会は、21年7月、10月、11月の3回開催した。栄養学分野では、日本栄養改善学会の「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム」についても参考にしたが、管理栄養士教育に偏ることなく、日常生活や社会生活の中で求められる食環境づくり、疾病予防などの視点を加えて幅広い能力をめざした。その上で、サイバーFD研究員223人に意見を求めたところ、32人(14%)から意見が寄せられ、寄せられた意見を踏まえて、以下の通りとりまとめた。ここでは、「コア・カリキュラムのイメージ」、「測定方法」を割愛したので、詳細は資料編【資料5】を参照されたい。

※ 既存の栄養士養成課程、管理栄養士養成課程のコア・カリキュラムによるだけでなく、今後の栄養学教育発展の視点から作成した。

【到達目標1】

栄養・食生活と心身の健康との相互関係を理解できる。

【到達度】

- ① 栄養素等の役割を説明できる。
- ② 栄養素の代謝を概説できる。
- ③ 栄養との関係から人体の構造と機能を概説できる。
- ④ 食品の化学成分(栄養成分、嗜好成分、機能性成分等)が説明できる。
- ⑤ 食品の調理・加工による変化について説明できる。
- ⑥ 栄養と健康との関係が説明できる。

【到達目標2】

栄養・食品・調理の理解に基づいて、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防の活用に発展させることができる。

【到達度】

- ① 各ライフステージにおける栄養の特性を説明できる。
- ② 栄養性、嗜好性の良好な食物を調整する技能を身に付けている。
- ③ 栄養・食生活に関するアセスメント、計画・実践・評価およびカウンセリングの技法を身に付けている。
- ④ 生産・流通・消費・食文化などから食生活と健康との関わりについて理解している。

【到達目標3】

食環境づくり(食情報・食物確保・食の消費と安全など)の必要性を理解し、実践できる。

【到達度】

- ① 食の安心・安全性(法規・制度・施策・リスク情報など)、衛生管理について概説できる。
- ② 衛生管理対策に関する技術(HACCPシステムなど)を身に付けている。
- ③ 正しい食情報にアクセスして、活用・発信できる。
- ④ 世界の食文化について理解し、地球規模の食環境についてグローバルな視点を持つことができる。

【到達目標4】

疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事・栄養療法について、科学的根拠に基づき説明できる。

【到達度】

- ① 病態について理解し、臨床における主観的・客観的な栄養評価について概説できる。
- ② 疾病、身体状況に対応した栄養補給法について概説できる。
- ③ 傷病者の適正な栄養投与量(経口、経腸および経静脈)を算定し、管理する方法を身に付けている。
- ④ 病態別の栄養ケアについて、献立の立案・実践・評価・改善ができる。
- ⑤ 食事と運動および主要な医薬品・サプリメントの相互作用について概説できる。

【到達目標5】

栄養マネジメントを実施できる。

【到達度】

- ① 栄養アセスメント、栄養ケアプラン、モニタリング、評価、改善のシステムについて説明できる。
- ② 栄養マネジメント業務遂行上の機能、方法、手順が説明できる。
- ③ 栄養マネジメントのために他職種間との連携の必要性を理解している。
- ④ 栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケアプラン、モニタリング、評価、改善に関する技術を身に付けている。
- ⑤ 栄養マネジメントに必要な情報を収集・蓄積・分析し、活用できる。

(23) 栄養学教育における情報教育

栄養学教育FD/IT活用研究委員会は、学士力考察をとりまとめの後、21年12月、22年2月に2回開催した。検討では、栄養・食生活・健康・疾病に関する適正な情報の選択と検索、情報倫理に基づくプレゼンテーション、栄養マネジメントに必要なソフトの利用、ケアプランの作成、情報通信技術を用いたモニタリング・評価、メディアを活用した食文化等の発信・情報交流などをとりあげた。

【到達目標1】

情報通信技術を利用して、栄養・食生活と健康・疾病に関する情報を収集・蓄積・分析に活用できる。

【到達度】

- ① 栄養・食生活と健康・疾病に関する情報の所在、構成、背景を知っている。
- ② インターネットを用いて、栄養・食生活と健康・疾病に関する適正な情報を検索し、選別できる。
- ③ 選別した情報をデータベース化して、統計・解析ができる。
- ④ 多様な情報通信技術を用いて、情報倫理に配慮した効果的なプレゼンテーションができる。

【教育内容・教育方法】

- ①と②は、情報検索を実施し、関連するWebサイトに接続させ、情報の収集および蓄積方法の演習を行う。
- ③は、問題解決のための情報を表計算ソフトなどを用いてデータベース化したものを統計処理し、その結果の妥当性を評価・判定する演習を行う。
- ④は、プレゼンテーションツールを用いて、引用や剽窃などに留意して、栄養教材作成の実習を行う。

【到達度確認の測定手段】

- ①～③は、レポート(電子媒体)、学習支援システムなどにより確認する。
- ④は、栄養教材の作品を学生の相互評価を含め、確認する。

【到達目標2】

栄養マネジメントに必要な専門的な情報活用ができる。

【到達度】

- ① アセスメントに必要な基本情報を知っている。
- ② 基本情報をデータ化できる。
- ③ 汎用アプリケーションソフトを用いて解析・評価できる。
- ④ 栄養アプリケーションソフトを用いて、ケアプランを作成できる。
- ⑤ 対象特性別アセスメント・ケアプラン情報を発信できる。
- ⑥ 結果のモニタリング、評価、フィードバックに情報通信技術を活用することができる。

【教育内容・教育方法】

- ①～③は、栄養データを用いて、汎用アプリケーションソフトを活用できる技術を修得する演習を行う。
- ④は、栄養アプリケーションソフトを用いて、各種事例に対するケアプラン作成を体験させる。

- ⑤と⑥は、栄養マネジメント(栄養アセスメント、ケアプラン、モニタリング、評価、フィードバック等)に関する問題解決型学習法を用いた演習を行う。

【達成度確認の測定手段】

- ①～③は、実技試験により確認する。
- ④は、作成したケアプランをレポートなどで確認する。
- ⑤と⑥は、ケーススタディについて実技、レポートなどで確認する。

【到達目標3】

情報通信技術を活用して、地球レベルでの「食」をテーマとした交流を行うことができる。

【到達度】

- ① 日本および世界の食文化等について適正な情報を収集・加工・発信することができる。
- ② 海外研修や国際会議等に参加し、インターネットなどを通じて継続的な情報交換ができる姿勢を身につける。

【教育内容・教育方法】

- ①は、インターネット(メール、ブログ、掲示板、ホームページ等)による情報交換に必要な技術や食文化等のデジタル情報を作成する演習を行う。
- ②は、食文化等の交流に関するプレゼンテーションを行い、成果を評価するための体験学習を行う。

【到達度確認の測定手段】

- ①は、情報技術を活用した食文化等に関するレポート、プレゼンテーションにより確認する。
- ②は、食文化等の交流の成果をレポート、プレゼンテーション等により確認する。